

朝のこない夜はない

良書を読み、 手本となりました。

副山首 鈴木正修

「朱しゆに交まじわれば赤あかくなる」と言いいます。これは朱しゆの中なかに入いれた物ものが赤あかくなることことから、人ひとは交まじわる友ともによつて善ぜんにも悪あくにも感かん化かされるといいう譬たとえです。

類るい似じのことことわざで「親おや擦すれより友とも擦すれ」、そしそしてそのものものずばり「善ぜん悪あくは友ともによる」といいうのもありまあります。






私は、友に劣らず大事なものに書物があると思います。

19世紀の中頃、サミュエル・スマイルズが著した『自助論（セルフ・ヘルプ）』という本があります。

ナポレオン戦争に勝ったイギリスは、この頃、隆盛期を迎えています。広大な植民地を世界中に持ち、イギリス海軍がいわゆる「七つの海」を支配すると言われた時代です。当時の統計では、全世界の工業生産の六割を占めていたと言われています。

その時代に、スマイルズは新聞や雑誌にスチープンソンを始め、大小問わずいろいろな発明をして社会に貢献した人や事業を興して成功した人、はたまた一つの道を貫いた職人等を熱心に取材して発表しました。それが大評判となつて講演依頼が殺到しました。

そして彼の文章を読み、話を聞くことによって、いわゆる労働者階級



から中産階級に参入する人が増えていったのです。立身出世をする人が
瞬く間に増えたのです。

身分制社会のイギリスでは、これは革命的なことでした。

労働者階級の人々は、スマイルズの文章を読み、話を聞くことによつて、志を立て、努力して修養を積み、社会的に尊敬される仕事をする
ことができ、結果として人生の成功者となることができると知り、それ
を実践したのです。

ナポレオン戦争以後のイギリスの社会的変化がバックボーンとしてあつたことも関係しているようです。

『自助論』はそうした時代に、スマイルズが取材したり経験したことをベースに一つの考え方としてまとめたものです。

日本でもこれを幕府の昌平黉始つて以来の秀才と言われた中村正直が



朝のこない夜はない (206)

『西国立志編』と訳して明治初年に出版、福澤諭吉の『学問のすすめ』とともに当時の大ベストセラーとなりました。二冊の本が日本の若者達の進取の精神を大いに鼓舞したのです。

日本もイギリスと同じように明治維新によって世の中が変わったこと、特に身分制度が無くなったという時代背景が大いに影響していたと思います。

良書は人だけでなく世の中、社会を変えていきます。

我々は先ず、古今一等の良書『法華経』を、そして日蓮聖人、三先師、山首上人の本を身を以って読んでいかねばと思います。そして、手本となつて読者を増やしていけるように。